

東京横濱電鐵株式會社年表

社名	略稱
田園都市株式會社 目黒蒲田電鐵株式會社 武藏電氣鐵道株式會社 舊東京横濱電鐵株式會社 池上電氣鐵道株式會社 玉川電氣鐵道株式會社 目蒲舊東横兩社合併後	田園 目蒲 武藏 東横 池上 玉川 新東横

年號	年	月	日	社略名稱	記	事
明治三五、	二、	八	玉川	玉川砂利鐵道株式會社名の下に特許狀下附せらる。	會社創立。資本金四拾萬圓。	渡邊熊之進氏代表取締役に就任。
同 三六、	四、	一六	同		電氣鐵道事業經營の許可を得。	火力發電用汽鑪汽機設置の許可を得。
同 三六、	一二、	一二	同		子爵青山幸宜氏取締役に就任。	代表取締役渡邊熊之進氏引退。
同 三七、	一〇、	二五	同			
同 三八、	六、	二五	同			
同 三八、	八、	一五	同			
明治三九、	一〇、	九	玉川	青山幸宜氏代る。	永松達吾氏代表取締役に就任。	資本金を六拾萬圓に増加。
同 三九、	一一、	一〇	武藏		電氣鐵道會社の發起認可出願。	發起人岡田治衛武、山根舜太郎、阿部太一郎、樋口鉦次郎、村田佐輔の五氏。
同 四〇、	三、	六	玉川		營業開始。(道玄坂上―三軒茶屋間)。	三軒茶屋―玉川間開通。
同 四〇、	四、	一	同			

明治四〇、六、二九	玉川	世田谷、駒澤兩村へ電燈供給の許可を得。
同 四〇、八、一一	同	澁谷―道玄坂上間開通。
同 四〇、一二、六	武藏	共願者東海電氣鐵道株式會社との妥協成立。
同 四一、五、八	同	假免許狀下附せらる。
同 四一、五、一四	玉川	電燈營業開始。
同 四二、三、一一	同	永松達吾氏代表取締役辭任。
同 四二、一〇、一三	武藏	津田興二氏就任。
同 四三、五、二四	玉川	發起人會開催。創立委員長に岡田治衛武氏。委員に根津嘉一郎氏外八名當選。
同 四三、五、三一	武藏	目黒、澁谷兩村へ電燈供給の許可を得。
同 四三、六、二三	同	第一回株式拂込（一株に付金五圓宛）完了。
同 四四、一、九	同	會社創立、創立資本金參百五十萬圓。
同 四三、一一、八	同	取締役社長、岡田治衛武、取締役、根津嘉一郎、岩下清周、小野金六、賀田金三郎、村井眞雄、新海榮太郎、監査役、伯爵廣澤金次郎、佐竹作太郎、男爵有地品之允、改野耕三の諸氏就任。
同 四四、一、九	同	本社事務所を京橋區加賀町十七番地に移す。
同 四四、一、九	同	幹線（澁谷―横濱間）。第一支線（調布
明治四四、三、二五	玉川	―蒲田間）の本免許狀下附さる。
同 四四、五、二九	武藏	富士瓦斯紡績株式會社と電力需給の契約成立。
同 四四、六、三〇	玉川	取締役村井眞雄氏に代り伯爵廣澤金次郎氏就任。監査役に佐竹作太郎、改野耕三、村井眞雄、園田實徳の四氏改選就任。
同 四四、七、三	武藏	玉川村。高津村へ電燈供給の許可を得。
同 四四、八、八	玉川	社長岡田治衛武氏辭任。取締役伯爵廣澤金次郎氏就任。
同 四四、九、二七	同	電力供給業の許可を得。
同 四五、五、三一	武藏	電力供給開始。
同 四五、七、二五	同	定款改正。取締役任期三年。監査役二年。
		取締役、伯爵廣澤金次郎、新海榮太郎、根津嘉一郎、小野金六、監査役、佐竹作太郎、改野耕三、村井眞雄の諸氏辭任。
		取締役社長岡田治衛武。常務取締役別府藤馬。取締役、岩下清周、賀田金三郎、伴野乙彌、志賀直溫。監査役、園田實徳、高木豐三、村井眞雄の諸氏就任。
同 四五、七、三〇	／	明治大帝崩御。大正と改元。
大正 元、一〇、一	武藏	本社を麴町區有樂町一丁目一番地に移す。
同 元、一一、二八	同	城南輕便鐵道敷設權讓受。資本金壹千壹

大正二、三、一七	玉川	百萬圓に増加。 資本金を壹百萬圓に増加。(富士瓦斯紡績投資四拾萬圓)。
同 二、六、一	武藏	事務所を麴町區八重洲町一丁目一番地に移す。
同 二、一〇、二	玉川	富士瓦斯紡績株式會社駒澤變電所竣工。 水力電氣購入。火力發電廢止(十一月一日以降大橋火力發電所使用中止)。 多摩川橋梁架設の認可を得。 資本金を八拾萬圓に減少。
同 三、二、一七	武藏	資本金を八拾萬圓に減少。
同 四、一、二七	玉川	事務所を麴町區有樂町一丁目三番地に移す。
同 四、三、一七	武藏	京王電軌へ電氣供給の許可を得。 事業目的を輕便鐵道敷設に變更。 資本金を貳百四拾五萬圓に減少。 城南線を除く全線工事竣工延期不認可。 輕便鐵道法により延長敷設を再出願。 會社創立、資本金四拾萬圓。
同 四、四、二	玉川	取締役社長山口文右衛門、專務取締役八木恒藏、取締役、原田金次郎、石黑景文、諏訪方季、武永常次郎、監査役、堀内良平、志村保一、藤倉桂助の諸氏就任。
同 四、七、八	武藏	
同 四、一二、二七	同	
同 六、五、一〇	同	
同 六、六、二四	池上	
大正 六、一〇、三〇	武藏	輕便鐵道敷設の免許を得。 社長山口文右衛門氏辭任。八木恒藏氏會社代表者に就任。
同 六、一一、一二	池上	
同 六、一一、三〇	武藏	輕便鐵道に代り廣軌鐵道敷設に定款變更。 開業十週年記念祝賀舉行決定。 同日相談役に和田豐治氏就任。
同 六、一二、一九	玉川	會社創立。資本金五拾萬圓。
同 七、九、二	田園	取締役社長中野武營、專務取締役竹田政智、取締役、服部金太郎、柿沼谷雄、緒明圭造、星野錫、監査役、伊藤幹一、市原求の諸氏就任。
同 七、一〇、九	同	取締役社長中野武營氏死去。
同 七、一一、一	武藏	事務所を芝區西久保巴町十七番地に移す。
同 七、一二、二一	玉川	資本金を貳百五拾萬圓に増加。
同 八、五、一四	武藏	事務所を牛込區原町一丁目十三番地に移す。
同 八、八、五	田園	澁澤秀雄氏歐米の田園都市視察を依頼する。
同 八、八、二八	同	資本金を百萬圓に増加。
同 八、一二、六	武藏	本社を麴町區内幸町一丁目四番地に移す。
同 八、一二、二一	同	定款改正。取締役に男爵郷誠之助、渡邊勝三郎、若尾謹之助、小池國三、中村房

大正八、一二、二六	武藏	次郎、林謙吉郎、鈴木寅彦。監査役に渡邊嘉一、辰澤延次郎、太田光熙、鈴木茂兵衛の諸氏就任。	大正二、四、二〇	池上	芳川寛治氏辭任に付高柳淳之助氏代表取締役に就任。
同	同	取締役會長に郷誠之助、専務取締役に渡邊勝三郎、常務取締役に鈴木寅彦の諸氏就任。	同 一、六、一〇	玉川	向ヶ丘村へ電燈供給の許可を得。
同 九、一、三〇	田園	資本金を五百萬圓に増加。	同 一、六、一一	同	廣尾線澁谷―惠比壽驛前間開通。
同 九、三、一七	武藏	在原電氣鐵道敷設免許を得。	同 一、六、二一	同	開業十五週年祝賀と共に資本金を五百五十萬圓に増加決定。
同 九、五、二六	同	出願の東京市内線澁谷―有樂町間延長免許。	同 一、七、一〇	武藏	目黒蒲田電鐵へ蒲田支線譲渡の件決定。
同 九、九、三	玉川	五島慶太氏常務取締役に就任。	同 一、九、二	目蒲	目黒蒲田電鐵へ蒲田支線譲渡の件決定。
同 九、九、二四	池上	廣軌（軌間四呎六吋）運轉開始。	同 一、一〇、二	同	會社創立。資本金參百五十萬圓。取締役に緒明圭造、竹田政智、澁澤秀雄、篠原三千郎、五島慶太、河野通。監査役に市原求、石川善太郎、伊藤欣二の諸氏就任。
同 一〇、一、二五	同	資本金を百四十萬圓に増加。	同 一、一〇、六	池上	竹田政智氏取締役社長に就任。
同 一〇、二、一五	田園	地方鐵道法に依る補助の許可を得。	同 一、一〇、八	同	蒲田―池上間開通。
同 一〇、四、一六	同	目黒線敷設の免許を得。	同 一、一〇、九	目蒲	開通式舉行。
同 一〇、五、一八	池上	矢野恒太氏相談役に就任。	同 一、一〇、三	同	千束變電所使用開始。
同 一〇、六、二一	同	起工式舉行。	同 一、一〇、三、一一	同	目黒―丸子多摩川間營業開始。
同 一〇、六、三〇	田園	芳川寛治氏社長に就任。	同 一、一〇、四	池上	池上―雪ヶ谷間營業開始。
同 一〇、七、一九	同	篠原三千郎氏取締役に就任。	同 一、一〇、五、二七	田園	竹田政智氏に代り市原求氏代表取締役に就任。
同 一〇、九、二九	同	電氣事業經營の許可を得。	同 一、一〇、七、二七	武藏	事務所を麴町區有樂町二丁目一番地に移す。
同 一一、四、一九	同	取締役服部金太郎氏辭任。	同 一、一〇、九、一	／	關東大震災突發。
同 一一、四、一九	同	池上電鐵へ投資の件協議。			

大正二、一、一	目蒲	丸子多摩川―蒲田間開通。	大正一四、一、二八	池上	資本金を參百七拾萬圓に増加。
同 一三、一、一	田園	大岡山の土地九萬壹千坪を東京高等工業學校へ移讓。	同 一四、四、四	同	電車線路の終點を五反田に變更の件許可さる。
同 一三、三、一	玉川	砧線開通。	同 一四、五、一	玉川	世田谷線殘部（世田谷―下高井戸間）開通。
同 一三、三、一	目蒲	資本金を五百萬圓に増加。	同 一四、六、二〇	同	資本金を壹千貳百五拾萬圓に増加。
同 一三、三、四	玉川	相談役和田豐治氏死去。	同 一四、六、二四	目蒲	電燈電熱供給事業經營決定。
同 一三、五、一	目蒲	株式會社多摩川園創立。	同 一四、七、一九	玉川	玉川プール開場。
同 一三、五、二一	玉川	恵比壽驛前―天現寺橋間開通。	同 一四、一、一一	東横	本線高島山隧道工事竣功。
同 一三、一〇、七	武藏	前役員辭任に依り取締役に市原求、服部玄三、緒明圭造、竹田政智、矢野恒太、五島慶太、篠原三千郎、澁澤秀雄の諸氏、監査役に伊藤欣二、小林一三の兩氏就任。定款改正。資本金を五百萬圓に増加。東京横濱電鐵株式會社と改稱。	同 一四、一二、三〇	池上	社長高柳淳之助氏に代り越山太刀三郎氏就任。
同 一三、一〇、二五	武藏	同日取締役社長に矢野恒太氏。専務取締役に五島慶太氏就任。	同 一五、一、二五	東横	本線第一期工事（調布―神奈川間）竣功。
同 一三、一〇、二五	目蒲	本社を荏原郡大崎町大字上大崎二三九番地に移す。	同 一五、二、一四	東横	奥澤及白幡變電所使用開始。
同 一三、一〇、二五	東横	渡邊利二郎氏監査役に就任。	同 一五、二、一四	東横	丸子多摩川―神奈川間運輸營業開始。
同 一三、一二、二三	東横	調布―横濱間工事區域を四區に分ち多摩川橋梁架設工事に着手。	同 一五、三、二八	同	日吉臺にて開通式舉行。
同 一四、一、一〇	同	世田谷線（三軒茶屋―世田谷間）開通。	同 一五、五、二七	池上	前増資可決取消。資本金を九拾貳萬五千圓に減少。
同 一四、一、一八	玉川		同 一五、六、一四	東横	地方鐵道補助の許可を得。
			同 一五、六、二九	目蒲	資本金を壹千壹百萬圓に増加。
			同 一五、七、三一	東横	鎌倉延長線を出願申請。
			同 一五、一〇、二	田園	目蒲電鐵へ合併の前提として資本金を參

[illegible]

昭和四、一一、一	目蒲	大井町線（二子玉川―自由丘間）開通。
同 四、一二、二五	同	同右（大岡山―自由丘間）開通。
同 五、六、一六	東横	取締役服部玄三氏辭任。
同 五、八、一	同	櫻木町線工事着手。
同 五、一二、八	玉川	代表取締役北川禮弼氏死去。
同 五、一二、二三	同	平沼亮三氏社長に就任。
同 六、六、一	目蒲	玉川ゴルフコース開場。
同 六、六、一二	東横	監査役伊藤欣二氏死去。
同 六、一二、二八	目蒲	丹羽武朝氏監査役に就任。
同 七、三、三一	東横	櫻木町線開通。
同 七、五、一	目蒲	駒澤ゴルフコース開場。
同 七、五、三〇	池上	取締役社長中島久萬吉氏辭任。後藤國彦氏代表取締役に就任。
同 七、一〇、一	目蒲	市域擴張の結果、本社所在地は東京市品川區上大崎町四丁目二三九番地と改まる。
同 七、一二、二七	目蒲	小宮次郎氏取締役に就任。
同 八、三、一	東横	澁谷驛改良、百貨店新築工事開始。
同 八、六、一	目蒲	目蒲乗合株式會社設立。
同 八、七、一〇	同	池上電鐵を統制。五島慶太氏專務取締役に、篠原三千郎氏常務に、緒明圭造、小林一三、中川正左、松浦由太郎の四氏取締役に、澁澤秀雄、丹羽武朝の兩氏監査
昭和九、六、二二	東横	役に就任。
同 九、六、二八	同	丹羽武朝氏監査役辭任。
同 九、九、五	／	丹羽武朝氏取締役に、守隨眞一郎氏監査役に就任。
同 九、一〇、一	目蒲	東京高速鐵道株式會社設立、五島慶太氏常務取締役に就任。
同 九、一一、一	東横	池上電鐵の合併實施。資本金を壹千七百拾萬圓に増加。
同 一〇、一、一七	同	東横百貨店開業。
同 一〇、六、一三	同	舊城南線麻布二ノ橋―廣尾間の工事竣工期限延長願却下。
同 一一、六、二六	同	東京觀光自動車株式會社の前身富士團體貸切自動車株式會社を買收。
同 一一、八、二四	同	東横乗合株式會社の合併決定。
同 一一、一〇、二三	同	中仙道乗合自動車株式會社を買收。
同 一一、一一、一	同	玉川電鐵を統制。
同 一一、一一、一四	同	東横乗合の合併を實施。資本金を壹千五百萬圓に増加。
同 一一、一二、二四	同	東横映畫劇場開業。
同 一二、二四	同	資本金を參千萬圓に増加。
同 一二、二四	同	取締役小林一三氏辭任。
同 一二、二四	同	五島慶太氏取締役社長に、篠原三千郎氏

昭和一二、一、三〇	東横	目蒲	東横自動車販賣株式會社の前身内田自動車株式會社を買收。	專務取締役任に、丹羽武朝氏常務取締役に就任。同日松浦由太郎、山本知太郎（東横）兩氏取締役に就任。	昭和一二、一、三〇	東横	東横自動車販賣株式會社創立。
同 一二、二、二八	同	同	本店を澁谷區大和田町一番地玉川電鐵事務所に移す。		同 一二、二、二八	同	東横食品株式會社創立。
同 一二、五、一七	東横	東横	東横食品株式會社創立。		同 一二、五、一七	東横	東横食品株式會社創立。
同 一二、五、二〇	目蒲	目蒲	目蒲乗合株式會社を合併。		同 一二、五、二〇	目蒲	目蒲乗合株式會社を合併。
同 一二、六、一	東横	東横	日本興業株式會社の自動車業を譲受。		同 一二、六、一	東横	日本興業株式會社の自動車業を譲受。
同 一二、七、七	／	／	支那事變勃發。		同 一二、七、七	／	支那事變勃發。
同 一二、一二、一	目蒲	目蒲	目蒲自動車運輸株式會社、芝浦乗合自動車株式會社の合併實施。資本金を參千萬圓に増加。		同 一二、一二、一	目蒲	目蒲自動車運輸株式會社、芝浦乗合自動車株式會社の合併實施。資本金を參千萬圓に増加。
同 一二、一二、一〇	東横	東横	東横興業株式會社創立。		同 一二、一二、一〇	東横	東横興業株式會社創立。
同 一二、一二、二四	同	同	竹内壽平氏取締役に就任。		同 一二、一二、二四	同	竹内壽平氏取締役に就任。
同 一三、一、一二	同	同	東京タクシー株式會社創立。		同 一三、一、一二	同	東京タクシー株式會社創立。
同 一三、四、一	同	同	玉川電鐵合併實施。資本金四千貳百五十萬圓となる。		同 一三、四、一	同	玉川電鐵合併實施。資本金四千貳百五十萬圓となる。
同 一三、四、一	同	同	竹内壽平氏取締役に就任。		同 一三、四、一	同	竹内壽平氏取締役に就任。
同 一三、四、六	目蒲	目蒲	取締役に緒明圭造氏死去。		同 一三、四、六	目蒲	取締役に緒明圭造氏死去。
同 一三、五、一〇	東横	東横	東海道乗合自動車株式會社の前身相武鶴		同 一三、五、一〇	東横	東海道乗合自動車株式會社の前身相武鶴
昭和一二、五、一七	東横	東横	屋自動車株式會社を買收經營。		昭和一二、五、一七	東横	屋自動車株式會社を買收經營。
同 一三、六、八	同	同	關東乗合自動車株式會社を買收經營。		同 一三、六、八	同	關東乗合自動車株式會社を買收經營。
同 一三、六、二四	同	同	東横映畫株式會社設立。		同 一三、六、二四	同	東横映畫株式會社設立。
同 一三、六、二七	目蒲	目蒲	太平自動車株式會社を買收。		同 一三、六、二七	目蒲	太平自動車株式會社を買收。
同 一三、六、二七	東横	東横	緒明太郎氏取締役に就任。		同 一三、六、二七	東横	緒明太郎氏取締役に就任。
同 一三、七、二七	同	同	武鶴次郎氏取締役に就任。		同 一三、七、二七	同	武鶴次郎氏取締役に就任。
同 一三、八、一九	同	同	株式會社日吉ゴルフ俱樂部創立。		同 一三、八、一九	同	株式會社日吉ゴルフ俱樂部創立。
同 一三、九、二六	目蒲	目蒲	舊玉川電鐵所屬廣尾及中目黒線の軌道業經營管理を東京市電に委託。		同 一三、九、二六	目蒲	舊玉川電鐵所屬廣尾及中目黒線の軌道業經營管理を東京市電に委託。
同 一三、一〇、二〇	東横	東横	取締役に松浦由太郎、小宮次郎兩氏常務に就任。		同 一三、一〇、二〇	東横	取締役に松浦由太郎、小宮次郎兩氏常務に就任。
同 一三、一〇、二八	同	同	江ノ島電氣鐵道株式會社を買收經營。		同 一三、一〇、二八	同	江ノ島電氣鐵道株式會社を買收經營。
同 一三、一〇、二九	目蒲	目蒲	東横運送株式會社創立。		同 一三、一〇、二九	目蒲	東横運送株式會社創立。
同 一三、一一、一〇	東横	東横	常務取締役に松浦由太郎氏死去。		同 一三、一一、一〇	東横	常務取締役に松浦由太郎氏死去。
同 一三、一一、一八	／	／	職制を部課制に改む。		同 一三、一一、一八	／	職制を部課制に改む。
同 一三、一二、二四	東横	東横	東京高速鐵道（青山六丁目―虎ノ門間）開通。		同 一三、一二、二四	東横	東京高速鐵道（青山六丁目―虎ノ門間）開通。
同 一四、一、九	同	同	伍堂卓雄氏取締役に、山本知太郎氏常務取締役に就任。		同 一四、一、九	同	伍堂卓雄氏取締役に、山本知太郎氏常務取締役に就任。
同 一四、一、二四	同	同	民衆タクシー株式會社を買收。		同 一四、一、二四	同	民衆タクシー株式會社を買收。
同 一四、四、一〇	同	同	大崎合同運輸株式會社を買收。		同 一四、四、一〇	同	大崎合同運輸株式會社を買收。
	同	同	東横女子商業學校開校。			同	東横女子商業學校開校。

昭和四、四、一〇	一	五島慶太氏京濱、湘南兩社事務取締役に、篠原三千郎氏湘南電鐵監査役に就任。	昭和五、六、一〇	新東横	東横産業株式會社創立。
同 一四、六、一	東横	玉電ビル二階へ玉川線乗入開始。	同 一五、六、二六	同	伍堂卓雄氏取締役に就任。
同 一四、六、一	目蒲	東横目蒲兩電鐵の合併假契約締結。	同 一五、一〇、一	同	神中運送株式會社創立。
同 一四、六、一六	東横	城南乗合自動車株式會社を買收經營。	同 一五、一〇、五	同	新宿興業有限會社を買收。
同 一四、六、二二	同	東横神社鎮座奉祀祭執行。	同 一五、一二、一一	同	東横砂利運送株式會社創立。
同 一四、六、二三	同	物故殉職の重役、社員の慰靈祭執行。	同 一五、一二、二三	同	横濱市街自動車株式會社を東横タクシー株式會社と改稱。
同 一四、六、二六	目蒲	東横電鐵の合併決定。	同 一五、一二、二八	同	昭和興業有限會社を買收。
同 一四、八、三〇	目蒲	伍堂卓雄氏取締役辭任。	同 一六、二、二三	同	五島社長、商工會議所一級議員に當選。
同 一四、九、二〇	東横	神中鐵道株式會社を買收。	同 一六、三、二	同	右副會頭に當選。
同 一四、一〇、一	東横	東横電鐵株式會社を合併。	同 一六、三、一〇	同	靜岡電氣鐵道株式會社を買收。
同 一四、一〇、一六	同	資本金を七千貳百五十拾萬圓に増加。	同 一六、六、三〇	同	相模鐵道株式會社を買收。
同 一四、一〇、一六	同	商號を東京横濱電鐵株式會社と改稱。	同 一六、七、一五	同	内務大臣指令に依り當社所屬旅客自動車運輸事業中、山手線以東の事業を東京市に譲渡。
同 一四、一〇、一六	新東横	山本知太郎、中川正左、武鶴次郎の三氏取締役に、渡邊利二郎氏監査役に就任。	同 一六、八、一	同	厚木共進運送自動車株式會社を買收。
同 一四、一一、一六	同	武漢交通株式會社を設立。	同 一六、八、八	同	相武土地建物株式會社、相鐵運輸株式會社を買收。
同 一四、一一、二一	同	秦野自動車株式會社を買收。	同 一六、九、一	同	東京高速鐵道株式會社、東京地下鐵道株式會社は帝都交通營團に合併。
同 一四、一二、八	同	横濱市街自動車株式會社を買收。	同 一六、九、二	同	五島慶太氏小田急電鐵社長に就任。
同 一四、一二、二六	同	株式會社大田中農場を設立。	同 一六、九、五	同	藤澤運輸株式會社を買收。
同 一五、三、一四	同	株式會社川崎ゴルフ俱樂部を買收。			
同 一五、三、二〇	同	ジャパンモーター株式會社を買收。			
同 一五、三、二〇	同	東横車輛株式會社創立。			

昭和 一六、一一、一	／	京濱、湘南兩電鐵會社合併。五島慶太氏 取締役社長に就任。
同 一六、一二、八	／	米英に對し宣戰の大詔煥發せらる。
同 一六、一二、二六	新東横	小林清雄、立花榮吉、鈴木幸七、三宮四 郎、尾川武夫の五氏取締役に就任。
同 一七、一、一三	同	配電統制令に基き、關東配電株式會社へ 電氣供給事業設備出資決定。
同 一七、二、一	同	市、社の協定書に基き山手線以東の自動 車事業及附隨せる人員の引繼を完了。
同 一七、二、七	同	京濱電氣鐵道株式會社、小田原急行電鐵 株式會社の合併契約成立。